農業における気象災害について

平成26年の大雪によるハウスの倒壊をはじめ、気象災害が発生すると農作物の収量や品質が大きく低下する場合があります。

このような中で、安定的な農業生産を維持していくためには、気象災害に的確に対応するための知識や技術的な取り組みが重要です。

そこで、気象災害に伴う技術対策等について簡単にまとめましたので、ご紹介させていただきます。

1 夏季から秋季の主な気象災害への対策について

（1）野菜

ア 台風及び強風対策

・露地野菜が浸冠水した場合は、速やかに排水を行います。

・病害が発生しやすいので天候回復後は速やかに薬剤防除を行います。

・ハウスの点検・補修をし、必要に応じて筋交いを入れる等の補強をします。

イ 降ひょう対策

・茎葉傷口からの病原菌の侵入を防ぐために殺菌剤の散布を行います。

・草勢回復のため、液肥の葉面散布や速効性の肥料を追肥します。

ウ 高温・乾燥対策

・露地野菜では、敷わら、マルチフィルムを使用するとともに、苗が活着するまで積極的に潅水します。

・施設野菜では、遮光・遮熱資材や遮熱塗料等を利用し遮光や遮熱に努め、温度上昇を緩和するとともに、開口部をできるだけ大きく取り、換気扇や循環扇等により通風を図ります。細霧冷房等の設備がある場合は、積極的に活用します。また、一つの対策では無く複数の対策を組み合わせます。

・ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類が増えやすくなるので、早期発見と的確な防除を行います。

エ 育苗期の管理

・気温の高い日中は遮光資材等で日よけを行い、強光によるダメージを最小限にします。

・遮光資材は天気に応じて開閉できることが望ましいです。

・育苗ハウスの開口部をしっかり確保することで通風を良くします。また、外部遮光の場合は遮熱資材の活用も有効なため、導入を検討しましょう。

・潅水は適量を随時行い、過乾燥及び過湿にならないように注意しましょう。

・夕方の潅水は夜間の空中湿度を上昇させ、徒長及び病害発生を助長するため、やむを得ない場合を除き、なるべく控えます。

（2）水稲

ア 梅雨期の長雨・豪雨対策

・可能な限り排水に努めます。

・排水後、速やかにきれいな水と入れ替え、落水して根に酸素を供給し、発根を促します。

イ 台風及び強風対策

・深水管理にします。

・台風通過後に乾燥風が吹いている場合、風が弱まるまで深水を保ちます。

・倒伏した場合、穂発芽の発生が心配されるため、溝切り等で排水してほ場の乾燥を早めます。

ウ 高温対策

・過繁茂では蒸散量が多くなるので、過剰な分げつにしない管理を行います。

・根の活力を維持するため、間断かん水を行います。ただし、出穂期前後は深水管理にします。

2 気象情報の活用

熊谷地方気象台や気象庁のホームページでは、天気予報や気候に関する情報やデータを提供しています。これらの気象情報を活用して、農作物の栽培管理に役立てましょう。